

防火構造（外壁 30 分） 標準施工要領書

一般社団法人

全国木質セメント板工業会

1-総則

この施工要領書は、防火構造（外壁）（硬質木片セメント板 12 mm以上張り）の仕様について適用する。

但し、実施に際してはメーカーへ施工の可否や留意点等を事前に問合せる。

2-使用材料

1) 主構成材料

・外壁材

名 称	硬質木片セメント板
規 格	JIS A 5404
形状寸法	平板：厚さ 12.0 ±1.0mm 以上 凹凸板：最小厚さ 12.0 ±1.0mm 以上

凹凸板最小厚さは、工業会規格によるものとする。

1) - 1 木造下地

- ・下地間隔 : @500以下
- ・内 装 材 : 平成 12 年建設省告示第 1359 号 第 1 号 (1)

・断 熱 材 : なし

または、断熱材を設ける場合は、

種類 グラスウール又はロックウール

厚さ、密度 必要な断熱基準によって決定する。

副構成材料

・外壁材用ねじ又はくぎ

: ねじ $\phi 2.75 \times 025$ mm以上

釘 $\phi 2.75 \times 032$ mm以上

水平・鉛直方向共に@500mm 以下

・胴縁 : 木胴縁 40×15mm 以上、

ただし、硬質木片セメント板に結露、水濡れが起こらない仕様が確保できる場合は、胴縁はなくてもよい。

・透湿防水シート：必要ならば、透湿防水シート（JIS A 6111）適合品

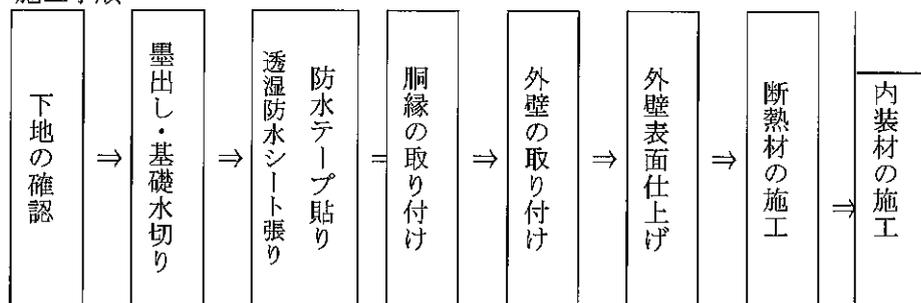
・目地（釘頭）処理材 : 必要ならば、パテ

・表面仕上げ：塗装、タイル、もしくは金属板張り

内装材の材料、施工に関しては、石膏ボード工業会などの施工要領に従うこと。

3-施工について

施工手順



施工要領

以下に、防火構造（外壁）（硬質木片セメント板 12mm以上張り）の施工要領を示す。

1) 下地の確認

【木造下地】柱・間柱・サッシ等下地の確認

- ① 木造下地では、柱・間柱の間隔は 500mm 以下にする。
- ② 柱・間柱、胴縁等の下地の目通りのズレは 3mm 以内とする。
- ③ 間柱位置の板間継手部には幅 40mm 以上の胴縁が留められるように補助下地を入れる。
- ④ 開口部廻りには四周に下地が入れてあることを確認する。

2) 墨出し・基礎水切り

- ① 建物の四周に水切り水平基準線を出し、基礎水切りを取り付ける。

3) 防水テープ貼り・透湿防水シート張り

- ① 開口部周りや換気口、配管周り等は防水テープを貼り、透湿防水シートと密着させる。
 - ② 透湿防水シートは、横張りを原則とし、下から張り上げ、上下の重なりは 90mm 以上、左右は間柱、胴縁間以上とする。
- 個別認定において、他の防水仕様がある場合は、この限りではない。

4) 胴縁の取り付け

胴縁のない構成の場合は、5) に進む。

木造軸組、木造枠組共通

【縦胴縁】

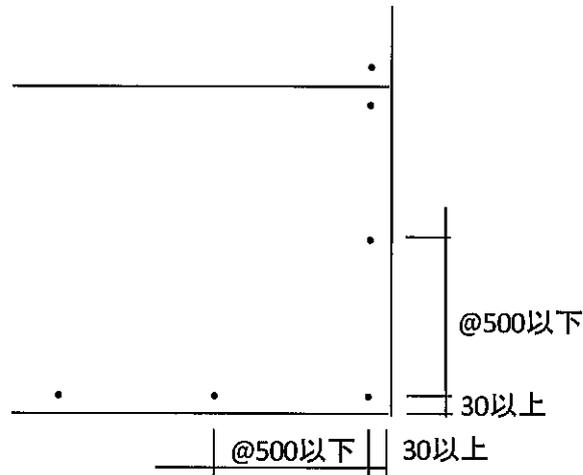
- ① 幅 45mm 以上、厚さ 15mm 以上の必要なくぎ保持力が確保できる木材（べいつが、杉など）または合板類とする。
- ② 胴縁は、長さ 50mm 以上のステンレスくぎ、鉄丸くぎ、または必要保持力のあるくぎを 500mm 以内の間隔で柱、間柱に取り付ける。

【横胴縁】

- ① 幅 45mm 以上、厚さ 15mm 以上の必要なくぎ保持力が確保できる木材（べいつが、杉など）または合板類とする。
- ② 胴縁は、長さ 50mm 以上のステンレスくぎ、鉄丸くぎ、または必要保持力のあるくぎを 500mm 以内の間隔で柱、間柱に取り付ける。

5) 外壁の取り付け

- ① 張り始めの外壁は、水準器などで水平を出し張り始める。
- ② 外壁の取り付けは、釘 $\phi 2.75 \times \phi 32 \text{ mm}$ 以上かつ下地へのかかりが 20mm 以上、
ねじ $\phi 2.75 \times \phi 25 \text{ mm}$ 以上かつ下地へのかかり 13mm 以上のものを使用し、留め付けのピッチは 500mm 以下で、端割れが生じないように留め付けの条件を設定し管理するものとする。
合は、材料端
程度以上の位

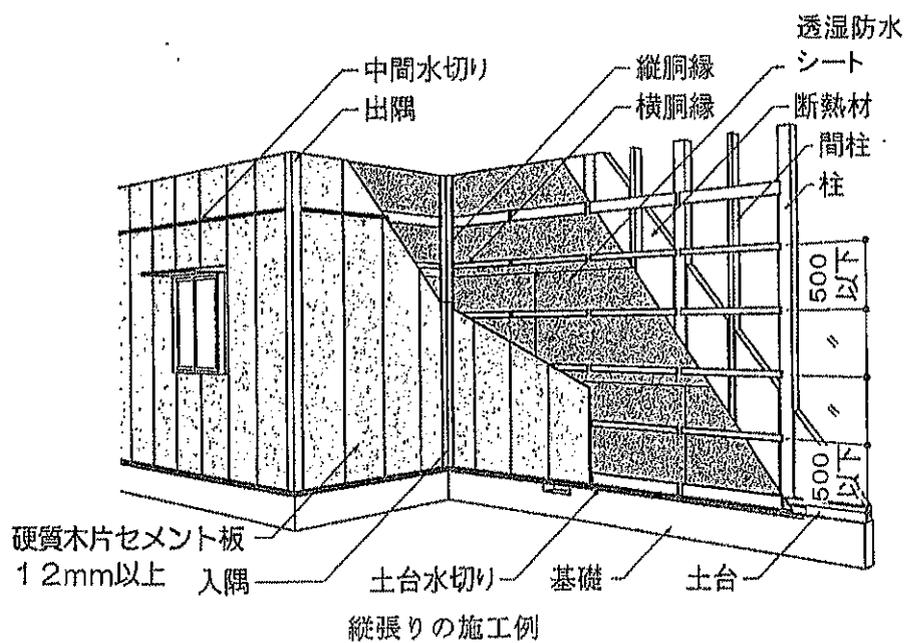
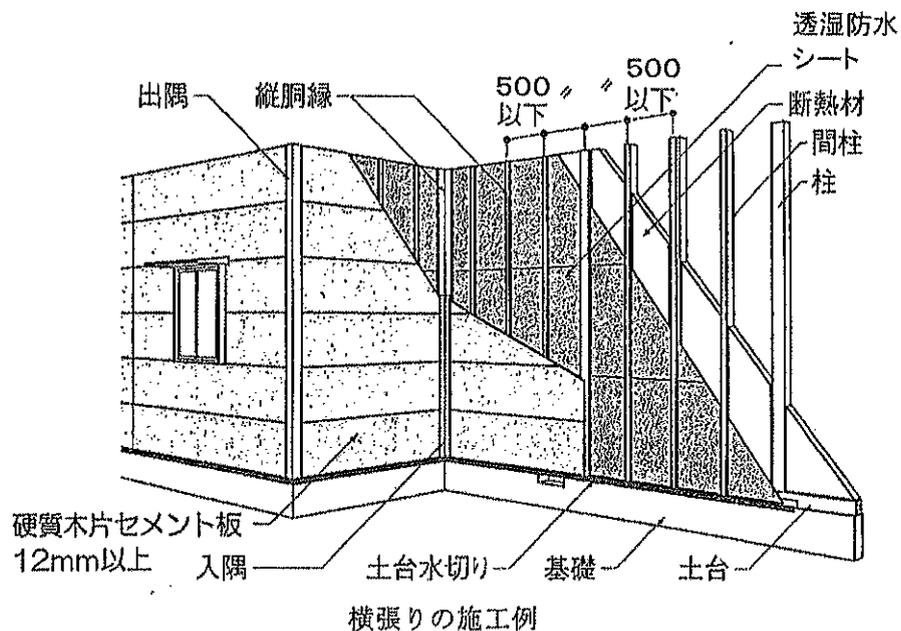


留め付けの管理例

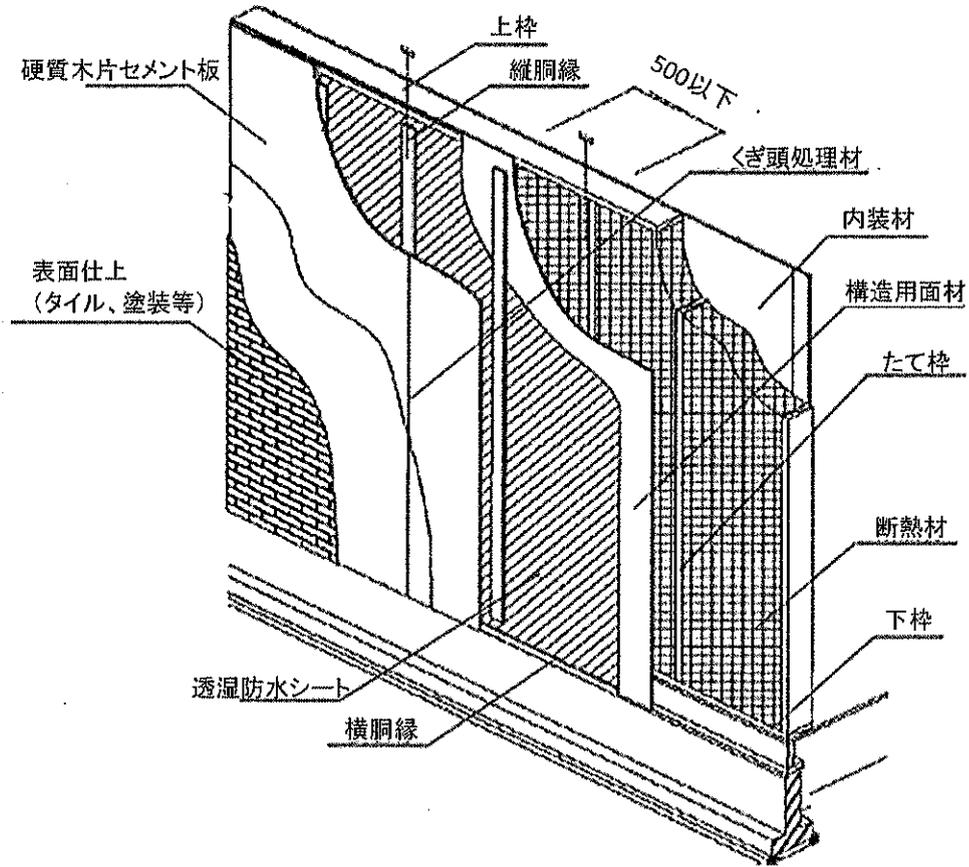
- ③ 外壁のつなぎ目は、突きつけ、もしくはハット型ジョイナーを用いるか、金属板からなる裏打ち材を施す。
 - ④ 必要ならば、つなぎ目、くぎ頭などのパテ処理を行う。
- 6) 外壁表面の化粧
- ① 外壁表面は、必要に応じて塗装する、タイルを接着する、もしくは角型鋼板をネジ等で固定する。
- 7) 断熱材の施工
- ① 片面のボードを取付けた後、間柱間隔の断熱材を、押し込むようにして充填し、ステープルにて留める。
- 8) 内装材の施工、仕上げ
- 内装材の材料、施工に関しては、石膏ボード工業会などの施工要領に従う。

透視図

軸組工法の施工例



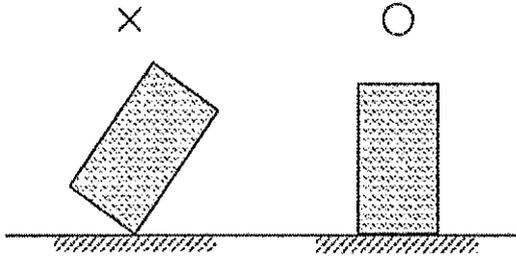
枠組工法の例



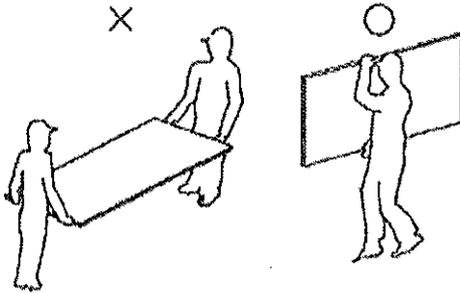
取扱注意事項

(1) 移動上の注意

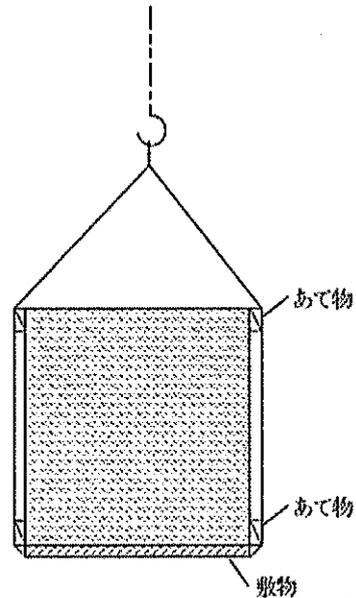
(イ) 移動中に折ったり、角等を傷つけないようにして下さい。



(ハ) 一枚ずつ運ぶ場合は水平に持つのは避け、必ず縦にして運んで下さい。

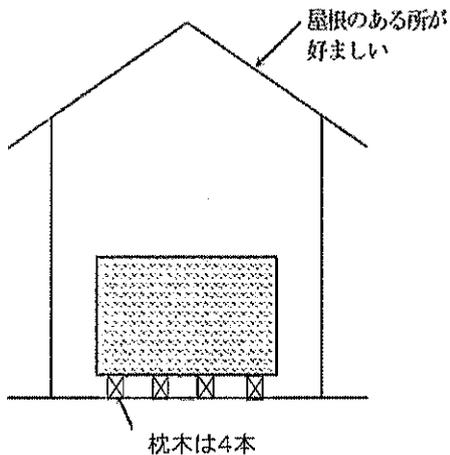


(ロ) 吊り上げる場合は布バンドを使用し、硬質木片セメント板と布バンド(ワイヤー)の間にはあて物を当てて下さい。



(2) 保管上の注意

(イ) できるかぎり屋内の平滑なところに保管して下さい。やむを得ず屋外に置く場合は、直射日光や風雨を避けるため防水シート等で保護して下さい。



(ロ) 置く場合は地面に直接おかず、かならず4本の枕木の上に置いて下さい。

(ハ) 積み上げ高さは1メートル以下として下さい。母屋の上などに仮置きする場合は支持力等に注意してください。

